田中康夫 × 浅田彰

今月の憂いゴト

淀川テクニックの作品から、集団的自衛権の閣議決定、移民の受け入れ政策、サッカー・ワールドカップまで！

大阪・中之島にある『国立国際美術館』で開催中の「ノスタルジー&ファンタジー」展を見学し、「淀川テクニック」の作品を鑑賞した田中・浅田両氏。集団的自衛権の行使容認の解釈改憲に呆れつつ、ワールドカップの中南米チームの活躍に賛辞を送った。

photographs by Hiroshi Takaoka　text by Kentaro Matsui

憂国呆談

season 2　VOLUME 50

淀川テクニックの作品を鑑賞。自治体と美術館のあり方とは？

浅田　大阪の国立国際美術館で開かれてる「ノスタルジー&ファンタジー」展は、タイトルから推測されるとおり、甘く温く緩い思いつきを羅列した救い難いシロモノで、代表作を並べた横尾忠則のコーナーがむしろ圧倒的な強度で突出して見える。新作3点も手の込んだ大作で、「自分のノスタルジーなんか描いてもしょうがないから、妻たちを追想するピカソをはじめ、他人のノスタルジーを描いた」っていうのも彼らしいひねり。あと、最後を締めくくる「淀川テクニック」の作品は、川辺に落ちているゴミを作品化するっていういつもの手法の展開だけど、迫力があってよかったね。

田中　いやぁ、横尾のバイタリティには改めて脱帽した。今年78歳だよ。20歳年下の我々も負けずに踏ん張らないとね。他方、70年代後半生まれ二人組の淀川テクニックの作品は初めて見たけど、イヴ・クラインやセザールと一緒に60年代初頭にヌーヴォー・レアリスムを展開したフランス出身アルマンの創作に似ているね。透明なアクリル樹脂の容器の中に生ゴミや今で言う産廃物といった日常を詰め込んだのがアルマンの「ゴミばこ」シリーズ。

“流浪の対談”が『CREA』『NAVI』『GQ』に続いて『ソトコト』の前に『週刊ダイヤモンド』で行われていた時代に二人で出かけた瀬戸内海の豊島（てしま）も想い出した。不法投棄ならぬ計画投棄の膨大な産廃を香川県庁が見て見ぬ振りをし続ける中、四半世紀以上にわたって闘った住民会議の掘っ立て小屋に展示してあった幾層にも堆積した産廃の断面は大変な「作品」だった。

浅田　この国立国際美術館は70年万博のとき吹田市の万博会場にできたんだけど、10年ほど前に中之島に移転してきた。シーザー・ペリ設計の建物は、とても褒められたものじゃない。北隣には大阪市立近代美術館（仮称）が建つはずが、予算難でいまだに更地のまま駐車場として使ってる状態。市長の橋下徹が、中途半端な美術館をいくつも造ったってしょうがない、世界的に注目されるような大きな美術館にまとめるべきだ、たとえば昔から天王寺公園にある大阪市立美術館と統合させて大阪美術館（仮称）にしてもいいって言うのは、正論だと思うよ。ただ、建設予定地は美術館を建てるって条件付きで国から購入した土地だから、建てなきゃ約48億円の違約金を国に支払わなければならなくなる。結局、ここに中途半端な美術館ができちゃうんだろうね。

田中　一度決めるとUターンできない戦艦大和の悲劇と似た行政の不条理だね。だからこそ、リーダーの決断が大切なんだ。

浅田　だいたい、南海トラフ地震の津波が来たら淀川の中洲である中之島は浸水する可能性が高く、全体が地下にある国立国際美術館は水没しちゃうかも……。

そうそう、洪水で思い出したけど、『ノア 約束の舟』は、ダーレン・アロノフスキー監督らしい陰惨な映画、ただ、ノアがラディカル・エコロジーの過激派として描かれてる点はちょっと面白かった。アダムとイヴの楽園追放から10世代で人類は世界の環境を破壊してしまった、神はそれを洪水で滅ぼそうとしてる、だから自分と家族は方舟をつくって罪のない動物たちを新しい大地へ導くけれど、そのあと自分たちは子どもをつくらずに絶滅するべきだ、と。ノアの息子たちは妻を娶って子どもをつくりたいわけだから、当然いさかいが起こる。よくあんな陰惨な映画をヒットさせたなあ。

集団的自衛権が閣議決定。日本は移民大国になる？

浅田　集団的自衛権の行使を容認する憲法解釈の変更が一方的に閣議決定された。暴走としか言いようがないね。その直後、元財務官僚の村尾信尚がニュース番組で安倍晋三首相に、政府の呈示したいくつかの事例がいわゆる新三要件にかなってるのか聞くと、安倍は明瞭に答えられないどころか、「それは違います、こういう状況で日本は何もしなくていいんですか？」とヒステリーを起こす始末。論理も何もあったもんじゃない。これじゃ、有事の際、新三要件なんて何の歯止めにもならないことは明らかだよ。

田中　「集団的自衛権とはいえ、自衛権であり、他国のために戦うことはない」という説明も、なんとも不思議な永田町文学だね。スポーツと違って戦場には白いラインが引いてあるはずもないのに、はい、ここから先は自国のためではない戦いだから参加しませんと宣言可能な戦争があるとは知らなかったよ（苦笑）。と同時に、自衛隊員が殺されていいのか、と情緒に訴える人たちはむしろ、自衛隊員が人を殺していいのか、と言うべきだよ。殺される前に殺すのが戦争。正当防衛なんて言葉は吹っ飛んでしまうのが戦争なんだから。

さらに不思議なのは、戦勝国が設定した無条件降伏という「戦後レジーム」からの脱却を声高に唱和してきた面々が、あにはからんや、無条件参戦という戦勝国のさらなる要求に応えて「戦後レジーム」の固定化を図る集団的自衛権のパスに乗り遅れるなと唱えてる謎だ。それが自家撞着（じかどうちゃく）の悲喜劇だと自覚していない。思考回路をMRIで覗いてみたくなっちゃうね。

浅田　閣議決定後の滋賀県知事選挙で、自公の推す経済産業省の元官僚が、嘉田「卒原発」県政の継承を唱える前民主党衆院議員の三日月大造に敗れたけど、原発再稼働の強行も含め、安倍政権への反発はかなり強まってると思うよ。

田中　皮肉な話で、集団的自衛権を行使すれば尖閣諸島や竹島は守られると思っているネトウヨたちは、逆に言えば、個別的自衛権では死守できないと諦めているわけで、これこそ新手の自虐史観だ（苦笑）。韓国は以前から米国の同盟国。中国は今や米国最大の輸入相手。（因みにカナダ、メキシコに続く日本は今やW杯同様に4位）。「今、そこにある危機」だとお花畑論者が喧伝する竹島・尖閣問題で日本と“対峙”する両国と、リアルポリティックスの米国が戦う蓋然性は、百田尚樹の言葉をかりれば実は「永遠の0」なのに、「永遠の無限大」だと思い込んでる。とりわけ尖閣は、日本が領有権も施政権も保持しているからこそ日米安保の対象だと米国も述べている訳で、その深意は、施政権を保持している段階では米国は関わりませんよってことなのに、そこも分かってない。

そして今回の「拙速な英断」に基づき今後、集団的自衛権行使を米国から要求されるであろう事案は、我が日本とは利害得失のいずれも“永遠の0”な地域や国家に、

淀川テクニック《Let's become garbage!（みんなでゴミになれる！）》（部分）　2014年　作家蔵　courtesy of the artists and Yukari Art

"返り血"というウィルス感染を自ら求めて勇躍お出かけする、ナイチンゲールも真っ青な究極のボランティア精神なのだと認識もしていない。

湾岸戦争以降、ステルス戦闘機に象徴される「見えない戦争」になっている。第一次世界大戦ではオックスフォードの1学年の31%が戦死して、ソールズベリー元首相も10人の孫のうち5人が戦死した。第二次世界大戦だって日本は学徒出陣で多くが犠牲となった。最近は秋元康が率いるAKB48のタレントが自衛隊のCMに登場する時代だから。毎日新聞が慶應大学SFCで、行使容認にも解釈改憲にも賛成の学生に徴兵制を問うと、「こういう大学に通う僕が戦場に駆り出される可能性はない。若者は竹やりより弱い。専門性の高い軍隊に国を守ってほしいから、戦闘員が足りないなら移民を」と答えていて、さすがに酷い奴だと炎上してたけど。

浅田　実際、アメリカではそうなったからね。ベトナム戦争であれだけ反戦運動が広がったのは徴兵制だったから。コリン・パウエル元国務長官は在米ジャマイカ人2世の移民の子どもで、兵隊になることで奨学金を得て大学に行けたわけだけど、日本でもそういう移民の若者たちが戦争を担うことになりかねない。

田中　持続可能な社会がどういうものかという議論がまったくできていないまま移民政策を闇雲に進めることは禍根を生みますよと警告したいね。スイスもフランスもイギリスも、善くも悪くも狡猾で計画的な移民政策を取ってきて、それでもトラブルは起きているんだから。約4割が外国人のシンガポールで、フィリピン人が祖国の独立記念日に、目抜き通りのオーチャード・ロードで祝賀イベントを企画して自国の旗を振って歩こうとしたら、一部のシンガポール人たちから怒りの声が上がった。リー・シェンロン首相はそうした反フィリピン人の動きを「シンガポールの恥」とコメントしたけど、シンガポール人にしてみればフィリピン人労働者が来たことで自分たちの仕事がなくなって目障りに感じている側面もある。

日本でも同様のことは必ず起きる。ところが政府の経済財政諮問会議は、このままだと日本の人口は100年後に5000万人を切っちゃうから、移民を年間20万人ずつ入れて100年後も1億人の人口を維持すべしと言ってるんだ。でも、それってバラク・オバマならぬ習近平や朴槿恵と同じDNAの移民の子どもが将来の首相になりますよって話でしょ。鳩山由紀夫元首相が日本列島は日本人だけのものではありませんって言ったのを実現することになるのに、ここでも産経新聞の読者は音なしの構え(涙)。今こそ百田尚樹は官邸前抗議行動を組織すべきじゃないのか(苦笑)。

田中康夫
たなか・やすお●1956年東京都生まれ。
一橋大学法学部卒業。大学在学中に『なんとなく、クリスタル』で文藝賞受賞。
長野県知事、参議院議員、衆議院議員を歴任。

その手の人々が日本は輝いていたと美化する日清・日露戦争の時代、人口は4000万人台だからね。人口5000万人で持続可能な日本を実現しようと主張すべきでしょ、彼らは。ただし、当時は人口構造がピラミッド型だったけど、今後の日本は逆ピラミッド型がますます加速するから、高齢者をケアする介護士やメイドをどう確保するかを考えるべきではある。それにしても日本人でない人たちが多く暮らす国になる政策に、ネトウヨをはじめとする右寄りの人たちが「亡国だ」と怒らないことはパロディでしかないね。恐るべき鈍感力だ。

浅田　「美しい国」を目指すはずの安倍政権が、他方では新自由主義で日本社会を破壊しようとしてるんだからね。とにかく、アパルトヘイト下の南アフリカ共和国のように、日本にも移民が暮らす地域が生まれ、2級市民としてきつい肉体労働をさせられるって構図は、なんとか避けないと。

田中　東南アジアからメイドがたくさん日本に来ることで、家事の負担が減った女性が家を出て働ける社会になるという発想も理解できない。そもそもメイドを雇える裕福な家はすでに雇っているでしょ。仕事のない日本の若者にメイドや介護の仕事を斡旋するのが先決。そう言えば、内閣府が推進している男女共同参画週間のキャッチフレーズが「家事場のパパヂカラ」だった(苦笑)。公募で山口県の私立高校の生徒たちの「火事場の馬鹿力」をもじった案が採用されたらしいけど、思わず脱力だよね。民主党時代にこんなの選んだら、ネトウヨがここぞとばかりに騒いだろうに。内閣府男女共同参画局も「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」という時代錯誤な名称の男性経営者の集いを開催。「輝く女性応援会議」のブログのタイトルも「SHINE!～すべての女性が、輝く日本へ～」。SHINEを「死ね」って読んじゃったとネット上で大炎上したけど、いやはや。

浅田　ぼくは原則的に移民の受け入れを進めるべきだって立場だけど、幼児や老人の世話は語学的に最もハードルの高い仕事なんで、日本語の話せる人がやったほうがいいに決まってる。そもそも人が人をケアするってのは高級な仕事で、たんなる肉体労働じゃない、いわゆる感情労働なんだから、それにふさわしい待遇を与えるべきだよ。老人介護はきつい肉体労働だから2級市民の外国人に押しつけようなんてのはまったく間違ってる。

田中　それは同感だね。元岩手県知事・元総務大臣の増田寛也が地方に人を戻せと言ってる「極点社会」のショック療法的な提言に霞が関官僚や全国知事会が賛同するのも、それが実は形を変えた公共事業論だからだ。青森市が失敗した「コンパクトシティ」と同じ轍を踏もうとしている。その意味で言えば、日本政策投資銀行にいた藻谷

協力：国立国際美術館　www.nmao.go.jp
展覧会名：「ノスタルジー＆ファンタジー　現代美術の想像力とその源泉」　会期：2014年5月27日（火）～9月15日（月・祝）

浩介が提唱している「里山資本主義」のほうがはるかに理解できる。もちろん、彼の提言だけで過疎の暮らしが豊かになるわけではないにせよ、田舎におけるコミュニティづくりの一つの方法は提示している。

浅田　極端なモデルケースである東北の被災地を筆頭に、補助金に頼って無理やり過疎地に住み続けるかたちは基本的に間違ってるよ。場合によってはコミュニティごと移住することを考えた方がいい。

田中　現在の過疎地だって江戸時代にも人は住んでいたわけだから、なぜ新自由主義経済の今、住み続けるのが困難になったのかという根本から考え直さないと。

サッカー・ワールドカップ、日本が敗退した理由は？

浅田　スタジアムの建設が遅れに遅れ、市民の反対デモも起こってどうなるかと心配されたブラジルのサッカー・ワールドカップも、無事に終わった。日本は一次リーグで敗退したからそれほど盛り上がらなかったけど。そもそも、「優勝は無理としても一次リーグ突破は当然だ」みたいな夜郎自大な事前報道がおかしかった。あれは大本営発表なみの誤報でしょう（笑）。スペインやポルトガルですら敗退したように、簡単なことじゃないんだから。

田中　だって予選C組4か国のFIFAランキングはコロンビア8位、ギリシャ12位、コートジボワール23位、日本46位。その客観的評価が証明されちゃった（涙）。「旅人」の中田英寿も協調性がなかったけど、本田圭佑よりは上等だった。「優勝する」と公言していた本田の口先番長ぶりは前原誠司も真っ青。一次リーグで1勝もできずに敗退してようやくマスコミも本田について多少厳しいことを書くようにはなったけどね。それにしても、朝日新聞だけが報じたコートジボワールとの試合の後に両国のチームで唯一、選手とも審判とも握手をしなかった彼の態度にすべてが表れている。本田にとってそれほど大きな失望だったのかと朝日はフォローしてたけど、いやいや、生まれつきの性格ですか？ 人間としての資質が疑われてもしょうがない。そういうモンスターチルドレンをつくっちゃったという話。鉄は熱いうちに打ての格言を痛感する。本田はチームプレーには向いていないのかな。個人競技の選手に転向したほうが実力を発揮するのかも。

浅田　どんな一匹狼でもそれだけの能力があれば許されるけど、あれじゃあね。ともかく、事前にはそれを偶像化しといて、負けると急に叩きだすマスメディアってのは、いつものことながらホントに最低。

日本はエース・ストライカー願望があって、それを本田に託したんだろうけど、ロール・モデルとしては内田篤人のほうがいいんじゃない？ シャルケみたいな昔の炭鉱労働者の町のチームにいると、ハンサムというよりかわいい子どもみたいで、みんなに愛される。有名な話だけど、東日本大震災直後、内田が励ましのメッセージを書いたユニフォームを見せて、「勝ったら見せようと思ってる」って相談したら、当時キャプテンだったノイアー（今回ドイツの優勝に貢献したゴールキーパー）が「じゃあ勝とう、オレが守るから絶対勝つ」と。で、勝ったあとまごまごしてる内田をカメラの放列の前に押し出してくれた。軽量級だけど速度と柔軟性があってバカにできず、みんなに可愛がられる。日本が目指すべきはむしろそっちでしょう。

田中　ACミランはCSKAモスクワに移籍金を払わなくてよかったから本田を取ったと言われる始末。それに比べて、中南米の選手がボールを持った時のスピードは明らかに凄かった。ヨーロッパでさえ負けてる感じがした。日本はゴール前で一息置いて、「さて、どうやって入れようかな」と考えてる印象。相手に取られちゃうに決まってる。あの中南米の勢いには世界のサッカーの変化を感じたなぁ。

浅田　優勝したドイツはともかく、ヨーロッパの名門クラブで高い金を稼いでるスター選手よりも中南米の無名の選手のほうが輝いた大会だった。

田中　その意味でも最後のコロンビア戦は、日本も海外組ではなく国内組を全員出せばよかった。ザッケローニ監督はレギュラーを固定化して、選手にも緊張感が見られなかった。もう一つは、Jリーグの下部組織をタコ足のようにつくり、年収100万円にも満たない選手がたくさんいる一方で、年収数億円の人間をのさばらせ、日本での記者会見に出席せず休養と称してブラジルから直接バカンスに出かける人間を許してしまった日本サッカー協会も反省すべきだよ。それにしても、ワールドカップの放映権料2000億円のうち、日本が5分の1の400億円を負担しているのだから、こんなにありがたい国はないよね。集団的自衛権の滅私奉公を連想させる一件だ。

浅田　戦争のできる「一流国」になれるつもりの安倍は、まさに本田みたいなものかも（笑）。そもそもFIFA会長のゼップ・ブラッターは「腐敗の象徴」と言われてて、22年のカタール大会なんて気候的に絶対に無理なのに金権主義で決まっちゃった。でも、それがさすがに限界にきてるんじゃないかな。前号でも言ったように、サッカー王国のブラジルであれだけの反対運動が起こったのも、その証しだよ。日本も東京オリンピックなんかで浮かれてる場合じゃないって。

田中　こうした中、状況も流動的で情報も錯綜するイスラエルのガザ地上侵攻、ウクライナ上空でのマレーシア航空機墜落が起きた。このあたりは次号でじっくり話そう。

浅田 彰
あさだ・あきら●1957年兵庫県生まれ。
京都大学大学院経済学研究科博士課程中退。京都造形芸術大学教授。
83年に出版されたデビュー作『構造と力 ―記号論を超えて』はベストセラーに。

ウェブ憂国呆談も進行中！ www.sotokoto.net